

NEC × Anthropic：国産AIの生存戦略と「エージェント型AI」の衝撃

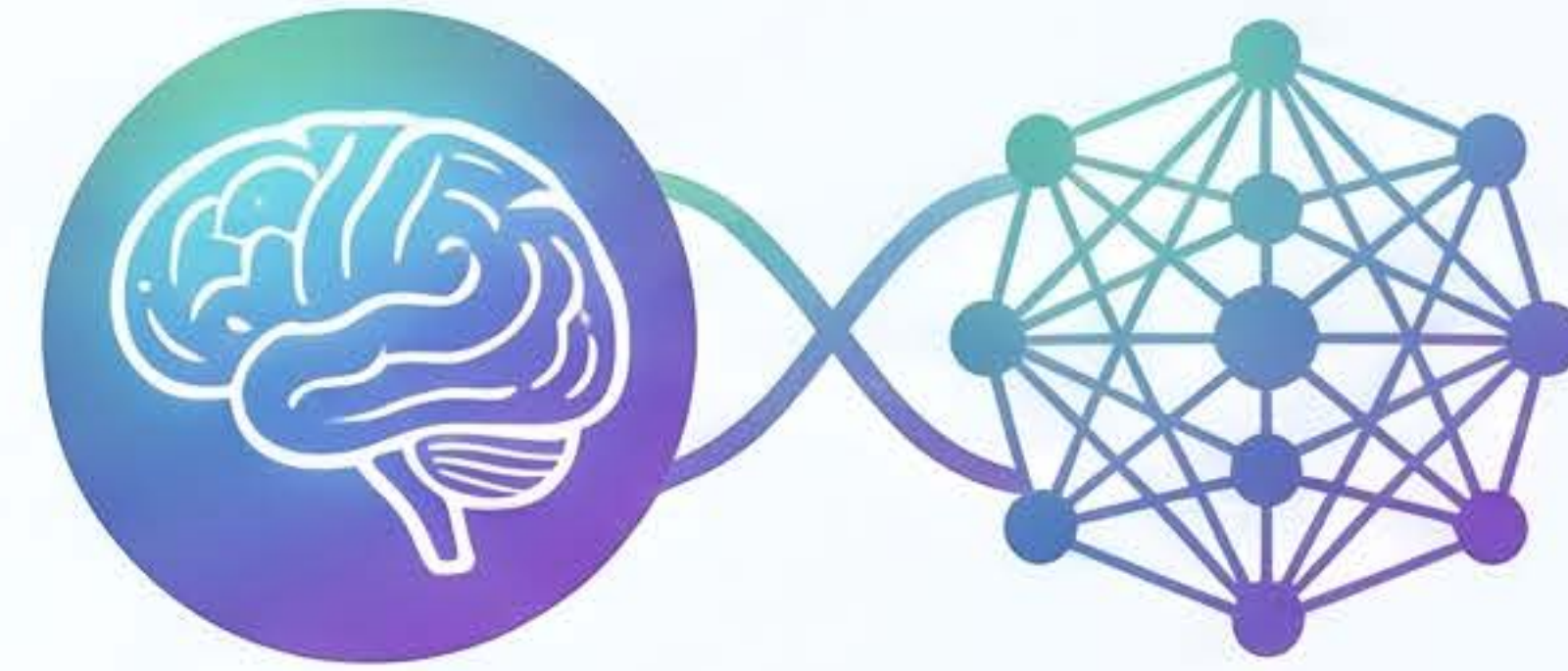
国内IT大手の「アンソロピック・ショック」と提携戦略



42万人規模のAI活用体制

NEC、日立、富士通の「御三家」が計42万人規模でAI活用を開始し、業界構造を転換。

役割分担による「ハイブリッド戦略」



世界最高峰の「脳」
(Claude)

日本特有の「神経網」
(国産AI：cotomi等)

高度な推論はClaude、業務分解や秘匿情報の処理は国産AIが担う。

NEC



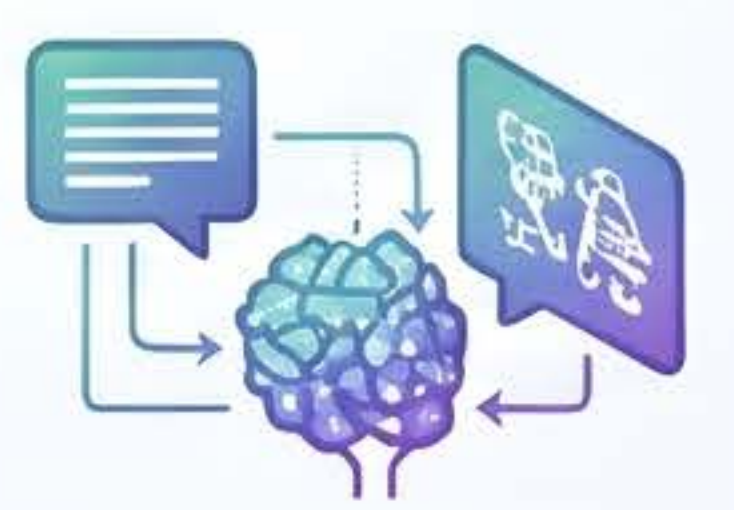
導入規模：約3万人
戦略：初のグローバルパートナー。自社AI「cotomi」とClaudeを結合。

日立製作所



導入規模：約29万人
戦略：自社基盤「HMAX」への組み込みによる全社的な生産性向上。

富士通



導入規模：約10万人
戦略：日本特化モデル「Takane」とClaudeを組み合わせた提供。

徹底した「クライアント・ゼロ」戦略



NEC自らが「最初の顧客」となり、AIの実装力を磨く

自社での実証で得た成功パターンをテンプレート化し、顧客へ安全に提供。

AIの進化：受動的な「ツール」から自律的な「パートナー」へ



受動的なツール



自律型AIエージェント

ユーザーの曖昧な意図を汲み取り、自らタスクを分解・実行

プロンプトへの回答だけでなく、複数のITサービスを操作して成果物を完成させる。

金融セクターでの業界横断型共創



国内主要金融7社が集結し、AI社会実装の標準を構築

厳格なコンプライアンスが求められる金融領域で、最高水準の安全性を実証。